



社会福祉法人  
大分県福祉会  
大分市頭徳町  
1-13-17  
発行者  
有松一郎  
☎532-3472



# 児童家庭支援センター HOPE 開設

「子どもたちが希望あふれる地域をつくります」

令和3年11月30日(火)、佐伯市に当法人2ヶ所目となる児童家庭支援センターHOPEを開設した。児童家庭支援センターは、児童福祉法に規定された第2種社会福祉事業である。家庭や友人関係、学校の事など、様々な子育てに関する悩みを相談出来る機関である。事業内容としては、家庭や地域の相談に応じる事業がある。電話、訪問、来所、メールでの相談を受けている。相談内容に応じて、子どもの心理面談や登校支援、居場所の提供など柔軟な対応をしている。



佐伯市役所すぐ側(外観)

市町村との連携事業では、ショートステイ事業がある。様々な理由で一時的に子どもが養育が困難な場合、市の窓口で申請していただくことで利用することが出来る。一週間以内の期間で子どもを児童家庭支援センターHOPEでお預かりするものである。利用時には、学校への送迎も行っている。

その他、児童相談所からの委託を受けて、児童養護施設等を退所後の見守り支援や指導を行っている。児童相談所や学校、保健所など様々な関係機関との連携や調整も大切な業務である。虐待や非行など重篤な事態に陥る前に、当センターが関わることで未然に防ぐことが出来ればと考えている。さらに、地域の里親さんとの連携もしっかりと行っていききたいと考えている。里親さんが集う里親サロンに当センターを利用していただき、交流を深め、様々な養育相談に応じていきたいと思う。里親さんの休息を目的としたレスパイト事業にも積極的に応えていきたいと考えている。

おおいたくらしサポート事業では、子育て中の生活困窮家庭への相談、経済的支援を行っている。相談者に寄り添い、家族全体の生活を一緒に考え、サポートしてまいります。また、当センターへの相談、ショートステイの受け入れは、センター長・心理士・相談支援員2名・児童指導員2名での対応となる。来所相談は、予約制となっているが、夜間や休日の対応も必要に応じて行っている。電話での対応は、24時間365日スタッフがいつでも対応出来るように待機している。



お気軽にご相談ください

ポートしていきたいと思っ

している。積極的に家庭や関係機関へも訪問し、支援活動を展開していきたいと思う。「HOPE」という名称は、「子どもたちが希望あふれる地域を創ろう」との思いを込めて命名した。課題を抱えた家庭や子どもたちの居場所となり、地域に根差したセンターを職員一丸となり創っていき



### 9月定時理事会

(令和3年9月22日)

①規則改正(就業規則、給与規則、旅費規則、ハラスメント防止規則、高速道路及び有料道路の業務利用に関する規程) ②児童家庭支援センターの新規設置について ③森の木法人車購入について ④防犯カメラのリース契約について ⑤森の木隣接地の土地購入について ⑥積立資産取崩し及び目的外使用について ⑦令和3年度第1次補正予算について ⑧審議を行い、旅費規則、高速道路及び有料道路の業務利用に関する規程の改正年月日を10月1日付に変更、その他はいずれも原案どおり承認された。

令和3年度前期の本部及び各施設の重点的取り組みの内容や利用者等からの苦情、要望、事故・ヒヤリハットが報告され、協議が行われた。法人のリブランディングにクリエイターとともに取り組んでいる状況を報告。各施設に共通した状況として、昨年度から引き続きコロナ禍で地域行事や職員研修等に大きな影響がでているが、感染防止対策に留意しながら可能な方策を模索し進めていることが報告された。

利用者家族からは、施設内での事故防止対応、他施設への移行手続き、送迎時の交通マナー違反への対応の必要性についてご意見を頂いた。第三者委員からは、地域行事参加への期待や、職員の不祥事への対応に関するご意見を頂いた。防犯対策としては①死角をつくらない②職場で相互抑制が働く環境をつくることなどが挙げられた。一般的なハラスメントについては、何が許されて、何が許されないかが、はっきり理解できる研修を行うことが重要である。本部及び各施設とも事業計画ができて目標設定が明確になっており、やるべきことの意識づけが高まっている。このことが職場のモチベーションを高め、サービスの向上に繋がっていくとの講評をいただいた。

## 年頭所感

新年明けましておめでとうございます。皆様には、令和4年の新春を健やかに迎えられることとお慶び申し上げます。



### 感謝を胸に

### 未来の事業構築に向けて

社会福祉法人大分県福祉会

理事長 有松 一郎

威を振るいはじめ、年明けには国内でも急速に感染が拡がり、中々出口の見えない状況が続いております。当面はオミクロン株の感染拡大を注視しつつ、3回目となるワクチン接種を通じた沈静化に期待をしたいと思っております。当法人につきましては、職員の緊張感ある日々の感染症対策に加え、ご利用児者とご家族の皆様との絶大なご理解ご協力により、令和3年を無事に乗り越える事が出来ました。今日までの皆様のご尽力に、心より感謝申し上げます。更なる感染症対策の徹底、利用者及びご家族と職員の精神的ストレスの低減等についての取り組みを進めてまいります。

このような困難な状況の中ではありません。新年明けましておめでとうございます。皆様には、令和4年の新春を健やかに迎えられることとお慶び申し上げます。

が、当法人の掲げております中期ビジョンにつきましては順調な歩みを刻むことが出来たと考えております。4月より働き方改革の更なる充実にむけて、新たな勤怠管理システムや勤務シフト管理ソフトの導入を行いました。さらには外部のクリエイターとの顧問契約によるデザイン経営の導入、そしてその実践として未来の福祉事業構築に向けた法人内ワークシヨップの開催、職員自らの手による社内報の創

刊、求人サイトのリニューアル等、役職にこだわらず広く法人内の人材を活かす取り組みを行うことが出来ました。11月には県南地域初となる児童家庭支援センター「HOPE(ほーぷ)」を佐伯市に開設し、県南地域の子育て家庭はもちろん、子どもたちへの未来に向けた取り組みも実現することが出来ました。そして本年は、大分県福祉会にとりまして創立70周年の記念すべき年を迎えることとなります。これ

までの歴史と、係わってこられた全ての方々への感謝を胸に、現在「70周年プロジェクトチーム」を立上げ、様々な記念事業等の計画を検討しており、来るべき80周年、さらには100周年へと続く新たな礎と成り得る事業を実現してまいります。最後に、「壬寅(みずのえ・とら)」です。「壬(みずのえ)」につきましては、ものやことが生じる様を表し、「寅(とら)」は成長を表すことから、本年は「新しい事や生まれたものが成長する」といった縁起の良い年と言われていると思います。本会としても、現在の困難な状況を乗り越え、次なる成長に向けた新たな挑戦の年にしたいと考えております。最後に、利用者様の皆様や勤務いただく役員はもとより、本会に期待と信頼をお寄せいただくすべての皆様は、本年もさらなる進化を目指す先達し続けることをお約束し、今後益々の皆様のご支援ご協力をたまわりますことを、心よりお願い申し上げます。

### 12月定時理事会

(令和3年12月15日)

①規則改正(就業規則、給与規則、旅費規則) ②児童家庭支援システムリース契約について ③森の木ポイラー取替工事について ④令和3年度第2次補正予算について審議を行い、いずれも原案どおり承認された。

令和3年度第1回  
福祉サービス運営委員会  
(令和3年11月19日)



**やった！ストライク😊**  
**～ ボウリング招待 ～**  
 うえの園・清明あけぼの学園

12月27日(月)に株式会社センทรัลカンパニーのご招待により、うえの園・清明あけぼの学園合同でボウリング大会が行なわれた。この日は、入所者だけでなく、総勢48名となり、感染対策として各施設が時間をずらしての開催とした。

南大分にあるCPボウルに到着すると、スタッフの方がトナカイなどユニークなコスプレをして明るい雰囲気を出迎えてくれた。また場内でも歓迎の横断幕が掲げられBGMと相まって気分を大いに盛り上げてくれた。

そしてゲーム開始、うえの園のレーンでは、視覚に障がいのある方や高齢で転倒リスクのある方等のために投降器が用意されていた。職員が方向を伝えたり、時には手を添えて投げたり、レーン手前の投げる位置まで一緒に付添いボウルを置いて転がしたりと思いいのスタイルでボウリングを楽しんだ。中には競技選手のようにとても上手く投げる方もいて驚かされた。

清明あけぼの学園のレーンでは、終始子ども達が楽しそうな声をあげ元気よく投げる姿があった。ライバルを意識して真剣な表情で臨む子もいて、最後まで目が離せなかった。ゲームを終えると、成績発表があり、力武社長から賞状と景品の授与があり歓声が会場が湧いた。

そこへ、サンタクロースに扮したスタッフが登場、クリスマスプレゼントが全員に贈られた。みんなとても喜び、

目を輝かせていた。「みんなの希望するものを贈りたい」とのご配慮から事前に職員がリサーチした情報を基に、準備をしていたいただいたもので、JUUのCDやジャージ、ジブリのパズルなど一つひとつが心のこもったプレゼントだった。

**ストライクになりますように！！**



サンタさん ありがとう～

**ボードゲームの貸し出し**  
 明野しいのみ保育園

当園で子ども達の好きな遊びの一つとしてボードゲームがある。ボードゲームは、カードやコマ、ボードを使って遊ぶゲームで近年注目を集めている。ルールに沿って遊びを進める面白さや勝負する楽しさがあり人気がある。また、遊びの中で数量や色形を見分ける力、順番等を学べるので子どもの成長を感じる場面がある。コロナ禍で家庭での遊びが限られる中、親子で遊ぶ充実したひと時を提供出来るのではないかと考えボード



お家で一緒に遊ぼうね

ゲームの貸し出しを始めた。同じゲームでも家族で遊ぶと違った楽しさがあるようだ。遊んだ事のないゲームを選んで借りた時は「お父さんにルー

**アートワークショップ**  
 ～ピアノイベント～



森の木

11月28日(日)、うみたまごにてピアノに自由にペンキでアートをするワークショップが行われた。この企画は、うみたまご代表取締役社長で大分県福祉会理事でもある橋本均さんの娘さん橋本佐枝子さんから招待いただいた。

小学生男女8名で参加し、うみたまご内をプレゼントしていただいたスケッチブックと色鉛筆を持ってスケッチ開始。それぞれ好きな水槽の前で、一生懸命魚の特徴を上手に捉えながら描いていた。大きなセイウチの前では迫力に圧倒され、描く手が止まり見



大きな水槽の前でスケッチ中

段々慣れてきて気分が乗ってきた子は、大胆になり「海に塗って！」とピアノの側面を青に塗っていた。思い思いに描いた絵はどれも素敵に仕上がった。ペンキで汚れた服を勲章のように見せ合う姿が微笑ましかった。

最後にはイルカショーまで見ることが出来て「楽しかった！」と子どもたちにとって思い出に残る日になった。



誰が勝つか？

ルを教えてもらった」と嬉しそうに話す子どももいる。お家時間が大切な今、笑顔の絶えない毎日にしてほしい。

**お手紙をもっと…**  
 滝尾保育園



十数年前から、大分市の「キッズサッカー巡回指導」として、大分トリニータのコーチが子ども達にサッカー教室を行って来てくれている。今年度は年長きく組の子ども達38人が7月7日(水)と11月12日(金)に指導を受けた。ボールを使った運動遊びを行い、終盤にはミニサッカーを行う。普段、体を動かすことが苦手な子どもも、この日はとても楽しく参加していた。



見て見て！上手でしょ！！

入っていた。スケッチが終わり、いざピアノに描くことが初めての子どもたちは、ドキドキしながら筆や刷毛を持ち、スケッチブックを見ながら描き始めた。



わ～、ニータンだ☆

11月26日(金)には、「コーチに会いに行こう」とお礼の手紙を持って、横尾にある大分トリニータのクラブハウスへ歩いて行った。50分もかかってしまい、少し疲れた子ども達を待っていてくれたのは、コーチとニータンだった。疲れを吹き飛ばし、コーチとニータンの元へ駆け寄る子ども達の顔は笑顔で溢れていた。「ニータン、ニータン」と呼びかけながら、抱き着いたり、優しく撫でたりする子ども達に、ニータンも可愛らしかったが、楽しい時間を過ごした。最後に全員で記念写真を撮った。



サッカー教室、楽しいな♪

保育園に戻り「おかえり」と出迎えた保育者に、「ニータンもいた」と伝え、矢継ぎ早に「可愛かった」「大きかった」と話してくれた。コーチには悪いが、子ども達には初めて間近で見たニータンの方が印象的だったようだ。

この経験を通して、体を動かすことを楽しむようになってくれればと思う。それと同時に数年後、サッカー選手を目指し、プロになる子どもがいるのではないかと、ほのかな期待を抱いている。

**親子レクリエーション**  
 別府厚生館

秋も深まった11月21日(日)に親子レクリエーションを行った。コロナの流行が落ち着いていたこともあり、バスを借りて少し遠出をした。

初めに、日出の観光農園でみかん狩り体験をした。農園で育てられているみかんの木は高さが低く、幼児たちも自分でみかんを摘むことが出来た。いろんな木を覗きながら、どのみかんが綺麗か、甘そうか親子や兄弟で話し、美味しそうのみかんを探した。場内は食べ放題で、もぎたてのみかんをその場で食べることができ、「甘い」「おいしい」とみかんの味を楽しんでいた。



どれがおいしいかな？

昼食をとった後は大分空港で飛行機の発着を見学した。別府厚生館のある別府市からは空港までが遠く、日常で飛行機を見る機会は少ない。全員で展望デッキに出て、飛行機の離着陸を眺めた。間近で見る飛行機に、「すごい」「大きい」と歓声が上がった。

天気も良く、みかん狩りや飛行機見学など日常ではなかなかできない体験に利用者親子の笑顔もたくさん見られ、行事を楽しんでもらえた。

コロナウイルスの流行は未だ収束せず、利用者も外出に慎重に対応してもらおう状況が続いている。そんな中で行事は、息抜きになったのではないかと感じられた。今も厳しい状況は続いているが、今後も利用者を楽しんでもらえるような機会を提供していきたいと思う。

**編集後記**



☆編集スタッフ☆  
 【編集責任者】  
 関谷眞佐子(うえの園・清明あけぼの学園)  
 【編集委員】  
 津守克彦(うえの園)  
 宮成俊佑(うえの園)  
 首藤美咲(別府厚生館)  
 小林奈未(森の木)  
 秋月忍(滝尾保育園)  
 小島すみれ(明野しいのみ保育園)  
 【顧問】  
 安東一夫(事務局長)